物語3

指導計画案

指導上の重点目標

【木曽の最期】

1　物語の背景となる時代、登場人物とそれにかかわる人物の関係、彼らの立場、置かれている状況を把握する。
2　敬語を理解する。
3　全文を正確に音読する。
4　ビジュアル的イメージを描きながら読む。
5　義仲と巴・兼平の互いを思う気持ちを読み取る。

学習活動

導入

❶ 源平の合戦について、知っていることをあげる。

❷ 源平の合戦の経緯を説明し、ここではだれとだれが戦っているのかを明らかにする。

❸「平家物語」の中で木曽義仲はどのような武将として描かれているか調べる。知技

展開

❶「古文を読むために6」を参考にし、頻出の敬語の意味と用法その他の重要語句を古語辞典で調べる。知技
→「言葉と表現」1

❷ 音便や敬語の読み方に注意し、全文を正確に音読する。知技 思判表
→「学習のポイント」1

❸ 義仲の装束や物の具について調べ、合戦のイメージをつかむ。

指導上の留意点

❶ 中学の歴史で習ったことや、アニメ、漫画、ドラマ化されたものなどから、知っている人物名を挙げさせる。

❷ 生徒の歴史の知識に補足説明をし、ここでは源氏同士の戦いであることを確認しておく。

❸「倶利迦羅落」「猫間」など、義仲の異なる面が描かれているところを紹介し、比較しながら読むよう指示する。

❶ 本文中に敬語が多いので、スムーズな読みと理解のために解説をしておく。「のたまふ」「申す」「おぼしめす」「候ふ」「給ふ」他に「奉る」「おぼゆ」「さす」など。多義語は文中での意味をよく考えさせる。

❸ 近代戦と異なり、鎧・甲・太刀などが華やかなことに注意させる。

		❹ 義仲についての記述と巴・兼平についての記述をそれぞれ文中から抜き出し、そこに表れている心情を読み取る。思判表 主態 (1) 巴との別れのとき (2) 主従二騎になったとき (3) 義仲と兼平がそれぞれの最期を遂げたとき 以上の部分に、どのような気持ちが表れているか、考える。 →「言語活動」1
1 義仲と兼平の人物像をまとめ、そのように描かれた背景について考える。 2 語り物の文章の言葉遣いや調子を味わう。 3 物語全体を流れる思想を理解する。	まとめと発展	❶ 前の時間にまとめた義仲と巴・兼平についての記述から、これらがどのような人物として描かれているか考える。また、彼らの言動の中で共感するところがあるか話し合う。主態 ❷ 音便や文の調子に注意しながら、内容をふまえて朗読する。知技 思判表 ❸「木曽の最期」から読み取れる「諸行無常」「盛者必衰」について考える。思判表
【単元の言語活動6　人物の心情を想像して「木曽の最期」を脚本化する】 1 脚本化して演じることで、	展開	1 ❶ 担当するシーンと役割分担を決める。 グループを作り、次のA〜Cから一つずつ担当するシーンを決める。 シーンA「義仲と巴の別れ」
		❹ 巴に対しての義仲は、相手を思いつつも表向きは名誉を重んじる大将であり、巴は女性でありながら最後まで戦いの人として描かれる。また、義仲と兼平は、共に相手のことを思っての言動であるが、義仲はもはや大将ではなく一個人に戻って兼平に相対しているのに比べ、兼平はあくまで義仲を英雄のまま死なせたいという態度をくずしていないことを読み取らせる。
		❶「平家物語」が語り物という形で大衆に親しまれてきたことを踏まえ、大衆の求める英雄像について考えさせる。 ❷ 内容の理解が、なめらかな読み、文章を味わうことにつながるような朗読を指導する。 ❸ 冒頭の「祇園精舎」で物語全体を貫く思想が提示され、その後に実例が語られるという構成になっており、「木曽の最期」もその実例の一つであることを理解させる。
		❶ クラスの人数によっては一シーンを担当するグループが二つになってもよい。

登場人物の心情を深く理解させる。 2 ナレーションを加えることで本文に省略されている描写を解釈させる。 3 グループ発表に対して、自分の意見や感想を持たせ、相互評価や自己評価をさせる。	シーンB「義仲を励ます兼平」 シーンC「義仲と兼平の最期」 ❷ 義仲役・巴役・兼平役・ナレーション役・演習などの役割分担を決める。 2「せりふ」と「ナレーション」を考え、脚本を作る。知技 思判表 ❶ グループ全員で話し合い、登場人物の「せりふ」を考える。 ❷ 場面の説明など、「せりふ」だけでは伝わりにくい要素を補足説明する「ナレーション」を考える。 ❸「せりふ」と「ナレーション」を脚本にまとめ、読み合わせをする。不自然な「せりふ」や、伝わりにくい「ナレーション」の表現がないか確認する。	❷ グループ内で必ず何かの役割を持たせるようにする。 ❶「木曽の最期」の会話文を参考にするが、登場人物のさまざまな心情を想像して、本文には書かれていない表現を補ってもよい。 ❸ ワークシートを活用し、各登場人物の「せりふ」と「ナレーション」とを分けて書く。
まとめと発展	3 完成した脚本を基に演じる。主態 ❶ グループごとに脚本を輪読して、発表する。「せりふ」の担当者は、登場人物の心情を想像し、感情を込めて読む。 ❷ ほかのグループの脚本のよかった点をあげる。	❷ 他のグループの発表の感想を書かせて、交換させてもよい。